

和歌山市における「新しいまちづくり」への挑戦

茨城県土木部都市局都市計画課 主事 岩瀬 寛 幸

令和5年1月20日に、令和4年度第2回まちづくり拝見研修会が和歌山県和歌山市で開催され、講演や現地視察などが行われました。

■講演：和歌山市都市建設局 都市計画部長 吉田 哲夫氏 題目：和歌山市における「新しいまちづくり」への挑戦

和歌山市では、過去に非線引きの周辺都市へ人口が流出したことを背景に、市街化調整区域の立地基準の緩和を実施。その結果、市街化調整区域の人口増にはつながったが、市街化区域の需要の拡散を招きました。このため、人口流出を抑制しつつ、コンパクトシティへの転換を図るべく、平成27年に開発基準条例を見直し、市街化調整区域の開発基準の厳格化を実施。既存集落区域（50戸連たん）を廃止し、拡散的であった宅地の開発を抑制しながらも、小学校や駅周辺などの集落拠点に、日常生活に必要な機能の誘導を図りました。また、まちなかの再生に向けて、学校統廃合により生み出された学校跡地などの公的不動産を活用し、新たな大学の誘致や、まちなかへの公共施設の集約化を図ったとの報告がありました。

その取り組みの成果もあり、現在では、まちなかにて子育て世代を中心に人口が増加。市域全体においても令和元年には転入超過になりました。

■現地視察：和歌山城周辺整備

本研修会の会場となる和歌山ホールは、旧市民会館の老朽化を背景に、旧伏虎中学校の跡地に建設されました。屋上にはガーデンテラスがあり、目の前に和歌山市のシンボルである和歌山城を望むことができます。地域交流センターとまちおこしセンターの機能を備えており、まちなかの新しい「にぎわいの文化交流拠点」として期待されています。

また、和歌山城ホールに隣接する銀行跡地を、まちなかのにぎわいの拠点とすべく、「城前広場」を整備しました。城前広場には、テイクアウト専門店が3店舗並んでおり、飲食もできる滞留空間として近隣の方には親しまれているそうです。案内をしてくださった市の職員の方からは、和歌山城を訪れた観光客が城前広場にも足を運んでもらい、観光客でにぎわう空間にしていきたいと思いを語ってくれました。



和歌山城ホールの外観



城前広場の様子

■現地視察：本町公園におけるPark-PFIの活用

本町公園は、公園と公園地下にある駐車場を、民間事業者の資金で公園を整備管理する制度「Park-PFI」を活用しており、都市再生推進法人が管理運営をしています。

公園内の既存建物をリノベーションした飲食店「the public」では、和歌山県産の食材を使用した料理やクラフトビールなどの地酒を提供。その他にも公園敷地内にて月1回のマーケットや各種イベントの開催をし、週末には多くの人々が公園に集まるとのことです。

この取り組みについては、周辺の旧小学校・幼稚園跡地への大学誘致や市立子ども総合支援センター・認定こども園の設置の取り組み等と合わせて「第3回コンパクトなまちづくり大賞 総合戦略部門 国土交通大臣賞」を受賞しています。



the publicの外観（本町公園内）

■おわりに

和歌山市では、リノベーションスクールを継続的に開催し、新たなまちづくりの担い手を育成しています。実際にスクールをきっかけとして複数のまちづくり会社が設立したとのことでした。今回の研修会では、実際に、まちづくりの最前線で活躍している民間プレイヤーの方から話を聞くことができ、皆さんのまちづくりに対する情熱をじかに感じる事ができました。まちづくりにおいても「人材育成」が重要であると改めて実感した研修会でした。

